## 宇都宮市と宇管工

# 官民連携で研修拠点

## 漏水・災害対応を実践訓練

宇都宮市上下水道局と宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）は9日、宇都宮市水道技術研修センターの開所式を開催した。関係者約70人が出席して、新たな人材育成拠点の完成を祝った。同センターは、水道修繕や漏水調査、災害時対応などを想定した実践的な研修施設として、官民連携により整備した。

施設は、市下河原水再生センター管理棟の一部を活用して整備した。施工は総和工業が担当し、3月に着工、6月8日に完成した。

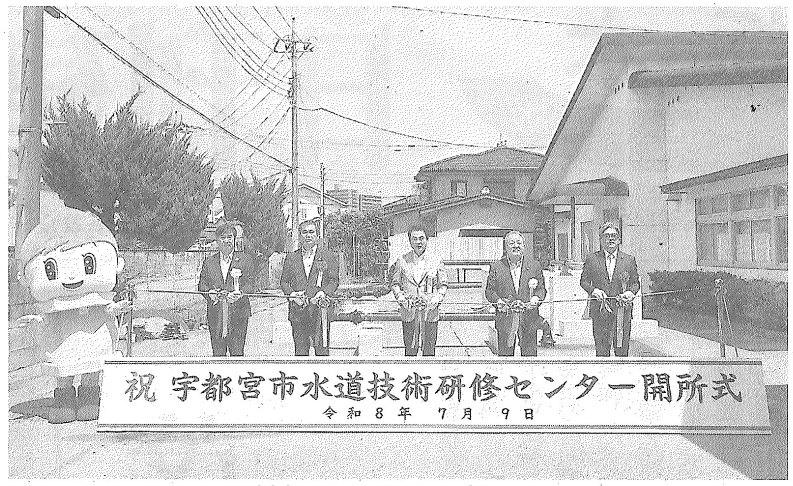
式典で佐藤栄一市長は「日常の修繕作業や災害時対応を想定した実践的な研修施設であり、官民が連携して技術力向上を図る人材育成の拠点となる。センターを最大限活用し、人材育成と技術継承を進め、市民生活に欠かせないライフラインの維持に努めたい」とあいさつした。

中村理事長は「市と力を合わせて整備した意義深い施設。安全・安心な水道を将来にわたって守るには設備だけでなく、人材育成が何より重要だ。若手技術者の育成やベテラン技術者の技能継承の場として積極的に活用し、水道事業を支える人材を育てていきたい」と述べた。来賓として出席した県県土整備部上下水道課の駒場洋明課長も祝辞を述べ、センターから多くの技術者が育つことに期待を寄せた。

開所式後には研修のデモンストレーションを実施し、漏水探知や仕切弁操作、漏水修繕などを披露。実際の現場を想定した実践的な研修内容を紹介した。

センターは地上2エリアと地下エリアで構成する。地上エリアでは洗管や通水、サドル分水栓・袋ジョイントの取付研修のほか、市の主要3管種を用いた凍結工法や宅内給水管修繕の訓練を実施する。地下エリアには3路線の水道管と6カ所の漏水箇所を設け、漏水探知機や音聴棒を使った漏水箇所特定の技能を習得できる。このほか、消火栓や仕切弁の操作、メーター設置・撤去の研修にも対応する。

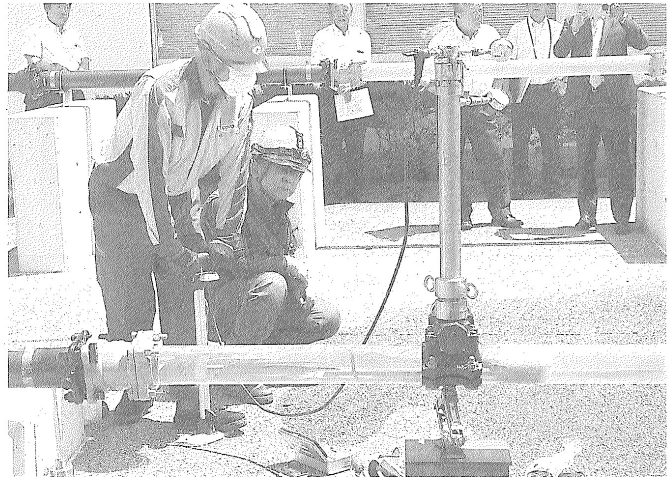
既存倉庫は給水車への給水や給水タンク設置など災害対応訓練に活用し、既存事務所棟はトイレなどの付帯施設として利用する。



関係者らによるテープカット

佐藤市長

中村理事長


漏水修繕のデモで行ったエアープラグによる止水処理